

疾病についての報告や、敗血症、アルコール関連死、妊産婦死亡に関する報告などがあり、大変興味深いものであった。

(林 玲子 記)

「第5回数値計算及び数理人口動態に関する国際会議」2019年（フロリダ）

2019年5月19日～同年5月24日にアメリカ合衆国、フロリダ州フォート・ローダーデールにあるヒルトン系列のマヒア・ビーチホテルで開催された「第5回数値計算及び数理人口動態に関する国際会議」に参加した。この大会は北米・ヨーロッパを中心とする数理生物学に関する応用数学の学術会議である。大西洋に面するビーチに面するリゾート地で開催された本大会は、アメリカ・ヨーロッパだけでなく中国や日本も含むアジアからの参加者も散見された。応用数学を中心とした会議であるため、現象を中心とした数理モデルの構築ではなく、そういったモデルを背景とした解析学に重きを置く研究が中心であった。力学系や偏微分方程式を中心とした数理モデルの中でも、この分野の昨今の風潮を反映してか疫学モデルが注目を集めていた。特に印象に残ったのは、ニコラ・パカエル氏（本人も参加している）の研究である R_0 の一般化を基にした結果の追従の研究が多かった事である。 R_0 は人口学でいう基本再生産数または純再生産率と同値の意味を持つ。安定人口模型では出生率と生残率を用いて表現出来る指標であるが周期環境やその他変動環境においてのこうした指標は自明でない。同氏はこれを周期環境において一般化を成し遂げた。こうした研究の動向を知る上で、人口学に止まる事なく関連の深い疫学の理論などにもアンテナを張る事が学際的にも必要のことと筆者はこの会を通して改めて感じる事ができた。

(大泉 嶺 記)

第92回日本産業衛生学会

2019年5月22～25日に、第92回日本産業衛生学会が愛知県・名古屋国際会議場にて開催された。日本産業衛生学会は1929年設立の公益社団法人で、2018年度末の会員数が8,000名弱という大きな学会である。主な会員は、企業に勤める産業医や看護師などであり、仕事や職場に関連した疾病の予防などを行っている。

当研究所からは別府志海・情報調査分析部第2室長が参加し、5月23日に「我が国の将来人口推計と産業保健への影響」と題した教育講演を行った。同講演は60分とやや長めであったが、ほぼ時間いっぱいまで講演を行うと、その後の質疑応答も活発に行われた。なお、この教育講演は日本医師会認定産業医ならびに産業保健看護専門家制度の研修も兼ねており、出席すると所定の単位が得られるようである。

(別府志海 記)

国立社会保障・人口問題研究所（IPSS）—韓国保健社会研究院（KIHASA） 第3次日・韓社会政策定例フォーラム（제3차 한·일 사회정책 정례포럼, The 3rd Korea-Japan Annual Social Policy Forum）

2019年5月23日、韓国保健社会研究院と本研究所の共同主催によるワークショップが韓国・ソウル市で開催された。これは両研究所が2009年12月に調印した研究協力に関する共同宣言に基づくものであり、第1回ソウル（2017年2月）、第2回東京（2018年2月）に続く3度目の開催となる。この年